



みんなの けんこう ガイド

※各保健センターへのお問い合わせは午前8時30分からです。

●乳幼児健康診査・健康相談

【受付時間】 ☆印…午前9時30分～10時、★印…午後1時～1時30分

※対象者には通知します。

内容	対象となる人（お住まいの地域）	日程	会場
★3～4か月児健康診査	平成21年6月生まれ（本庄地域）	10月28日(水)	本庄市保健センター
	平成21年6月～7月生まれ（児玉地域）	11月19日(木)	児玉保健センター
☆9～10か月児健康相談	平成20年12月生まれ（市内全域）	10月28日(水)	本庄市保健センター
★1歳6か月児健康診査	平成20年3月生まれ（本庄地域）	10月26日(月)	本庄市保健センター
	平成20年3月～4月生まれ（児玉地域）	11月18日(水)	児玉保健センター
☆2歳児健康相談	平成19年9月生まれ（市内全域）	10月27日(火)	本庄市保健センター
★3歳児健康診査	平成18年9月生まれ（本庄地域）	10月27日(火)	本庄市保健センター
	平成18年9月～10月生まれ（児玉地域）	11月17日(火)	児玉保健センター

●育児相談・学級

【会場】 児玉保健センター

※電話による育児相談は随時受け付けています。各相談・教室の予約は、本庄市保健センター（☎②2003）へ。

内容	対象となる人	日時	その他	
すくすく相談 (育児・栄養相談、計測)	相談・計測希望の人	10月30日(金) 午前9時30分～11時	定員あり。事前に電話予約してください。	
母乳相談	母乳のことで相談がある人	10月30日(金) 午前9時30分～11時	定員あり。事前に電話予約してください。	
カンガルー広場 (情報交換・友達づくりの場)	0～2歳児とその保護者	10月5日(月) 午前9時30分～正午	おやつを持ち込みはできません。	
おや親タマゴ	マタニティ エクササイズ	これからママになる人 会場：本庄市保健センター	10月7日(水)・11月4日(水) 午前10時～正午	先着20組。事前に電話予約してください。
	母乳・沐浴	これからママ・パパになる人	11月14日(土) 午前9時30分～正午	先着20組。事前に電話予約してください。

ください。(お持ちでない人は保健センターまで)



高血圧健康相談のお知らせ

高血圧予防対策を中心とした健康に関する相談にお答えします。

日時 10月20日(火) 午前9時30分～11時30分

内容 保健師・栄養士による健康相談、血圧・体重・体脂肪測定(希望者)

会場 本庄市保健センター

対象 おおむね30歳以上の市内在住者

定員 9人(多数の場合抽選)

申込 10月16日(金)までに本庄市保健センターへ

肺がん・結核検診のお知らせ

前年度受診者と新規対象者には受診券を郵送しました。

受診券が届かない人で受診を希望する場合は、各保健センターへお問い合わせください。

①本庄市保健センター会場

日程 10月29日(木)、30日(金)、11月10日(火)、11日(水)

受付時間 午前8時45分～10時、午後1時～2時

②児玉保健センター会場

日程 11月5日(木)、6日(金)、9日(月)

受付時間 午前8時30分～10時、午後1時～2時

10時、午後1時～2時

①②共通

対象 40歳以上の市内在住者

検診内容 胸部レントゲン撮影、肺がんの喀痰検査(必要な人のみ)

料金 2000円(喀痰検査は別途5000円)

※大腸がん検診の希望者は、検診時に申し出てください。料金と引き換えに、採便容器と検診日程表をお渡しします。

「上手にヘルスアップ」楽しく正しくウォーキングPart2 ～体に優しい歩き方～

普段の姿勢や歩き方をチェックします。その後みんなできいっしょに楽しくウォーキングします。足腰に負担が少なく、しつかり歩ける歩き方を学びましょう。

日時 10月16日(金) 午後1時30分～3時30分

会場 本庄市保健センター

内容 保健師の講話と実技

対象 おおむね30歳以上の市内在住者

定員 20人(多数の場合抽選)

申込 10月13日(火)までに本庄市保健センターへ

医療メモ

本庄市児玉郡医師会広報部

子宮頸がん検診を受けたことがありますか？

日本では毎年、0期(上皮内がん)を含めて約15、000人の女性が子宮頸がんを診断されています。そして、約2、500人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。

子宮頸がんは、かつては40代以降の女性に非常に多い病気でしたが、近年、20代や30代での発症が増加し、患者の25%を占めるようになっています。

①子宮頸がんの原因

子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因です。HPVは性行為により感染しますので、性行為のある女性の70%から80%が一度はHPVに感染します。現在、健康な女性の10%がHPVに感染していますが、感染している人のほとんどは1年以内にHPVが消失します。HPVの感染が続いている人のごく一部が環境や免疫力の低下などから子宮頸がんを発症します。

②子宮頸がんの予防(子宮頸がん検診)

HPVに持続的に感染して

いると、時にはがんになる可能性のある前がん状態の異形成へ進行します。異形成がすべてがんになるわけではありませんが、ほうっておくと数年から十数年単位で初期がんになる場合があります。これを放置すれば浸潤がんへと進行していきます。したがって、定期的に子宮頸がん検診を受けることにより、異形成や初期がんの段階で早期に発見できれば、治療で100%治るので、確実な予防法といえます。また、子宮頸がんは、異形成を含め早期に治療すれば子宮を摘出せずに済みます。将来の妊娠・出産のためにも、20歳を過ぎたら子宮頸がんの定期検診を早めに受けるようにしてください。

③HPV検査

子宮頸がん検診の一助として、新しく登場したのがHPV検査です。この検査で、発がんしやすい高リスク型HPVか、ほとんどがんを引き起こさない低リスク型HPVかをチェックします。しかし、この検査は健康保険適用となっていないので、今のところは自費で検査を受けることとなります。異形成を認めた場合に行うことがあります。

④期待される子宮頸がんワクチン

子宮頸がんのHPVワクチ

ンは、本年10月に厚生労働省に承認される予定です。したがって、日本でも近い将来、子宮頸がんワクチンの予防接種が実施されることとなります。このワクチンは、がんの原因になるHPVの感染を予防するものですが、HPVは何種類もあるため、ワクチンの接種でHPVの感染をすべて防げるわけではありません。しかし、性交開始前の早い年齢で接種すれば、それだけ、将来子宮頸がんになるリスクを大幅に減らすことができます。ワクチン接種への国民の理解と今後の接種のシステムづくりが期待されます。

⑤もうひとつの子宮がん、子宮体がん

子宮体がんは、子宮内膜にできるがんです。原因は不明ですが、エストロゲン(卵胞ホルモン)が関与しています。発症する年齢で一番多いのが50代です。無症状のこともありますが、一番多い症状は不正出血です。リスク因子には、初経が早くから始まった、閉経が遅い、月経が不順、排卵障害がある、妊娠・出産の経験がない、閉経した後不正出血がある、肥満などがあります。子宮体がんを予防するため、リスク因子がある人や不正出血がある人は、産婦人科を受診しましょう。